

いつかはこの地域に 恩返しがしたかった

—町工場のIT化をサポートする企業家ネットワーク—



奥山 陸さん(手前はチタン製のアクセサリー類)

中小企業の異業種交流。一九八〇年代ころからその活動は各地で盛んになり、今日では把握できている交流グループだけでも三〇〇〇グループ以上が存在する(二〇〇〇年現在)。

千葉商科大学の中山教授によれば、経営活動を直接の目的とした異業種交流グループには開発型、交流型の大きく二つのタイプがあるという。目的意識が不明確なままで自然消滅するグループも少なくないが、他方では、産学交流などでより活発に機能するところもある。

今回は女性企業家と、彼女が参画する異業種交流グループメンバーが共同出資で立ち上げた会社のお話。主に地元の中小製造業をサポートし、地縁ネットワークを大切にしたいビジネスを追求するマイノリティをこ紹介しよう。

美大卒業後に、グラフィックデザイナーや販促プロモーターとして活躍していた奥山陸さん。バブル景気絶頂期には、日夜激務に追われていたが、ある日、突発性難聴まで思ってしまった。病床での「いつまで兵隊をやっているんだー」そんな父の言葉に後押しされ、「働くというのは、雇用されるだけではないのだ」と気づいて、一九九〇年に独立を決意。有会社オフィス・ウイルを最初は新宿で創業した。

結婚を機に一年後には東京都大田区に拠点を移し、職住近接の生活が始まってから今年で一四年目を迎える。事業内容は書籍編集、webサイト構築、ビデオ製作など、健康、福祉、女性問題やインターネットに特化したノウハウを持つ中小企業だ。

九七年には女性経営者中心の異業種交流グループT.E.S.(テス)を発足。ちなみに、T.E.SとはT.O.C.O.(東京、O.T.S.U.M.I.N.O.(エクゼクティブ)、S.O.S.O.O.(ソサエティー)の三つの言葉の頭文字を並べたネーミング。奥山さんは当初は広報を担当し、九九年から会長に就任した。

現在、T.E.Sの会員企業は一七社。男性メンバーも含まれている。活動内容は、創業希望者向けの「女性起業家実践講座」や福祉施設への訪問、

区長との懇談など、「マンネリ化」とは黒縁の実践的な異業種交流活動を続けてきた。

注目したいのは、二〇〇〇年六月にT.E.Sのメンバー五名が共同出資して設立したe-Tes(イーテス)。

大田区や近辺の中小企業、小売商店などを対象とした情報化サポートを行う全国初の「女性企業家異業種交流会から興した会社」として、広く注目されている。

東京大田区は、金型や精密機器など、高度な独自技術を持った町工場の集積でよく知られたわが国が誇る中小企業の町。マスコミでも、技術力の高い区内の中小企業が頻繁にクローズアップされる。けれどもその一方で、中国をはじめ東南アジア諸国との競争が激化し、対応に悩む中

(有) オフィス・ウイル
(有) e-Tes(イーテス)

本社：東京都大田区

オフィス・ウイル

<http://www.officewill.co.jp>

テス

<http://www.ota-tes.cup.com/ow-index.html>

